

---

# 僕とおかんと狂気の父 ？

クレイジーダディ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕とおかんと狂気の父？

### 【Nコード】

N5307BA

### 【作者名】

クレイジーダディ

### 【あらすじ】

前回までのあらすじ

やあ、僕はダイキ。

十五歳の誕生日に父がくれたのは、母を取り込んで完成した超汎用人型兵器、オカンゲリオン。

ええっ、これに乗れってどういう事よ？おまけに、敵はデブルガンダムに取り込まれた兄ちゃん？

兄ちゃんを引きこもり部屋から引きずり出すその日まで、俺の戦

いは終わらないっ！

さあ、我が家の平和を取り戻すその日まで、戦うんだ、俺！

## 今回は学園モノか？の巻

「何やってんですか！」

俺は父が掲げているプラカードを奪い取り、叩き折った。

「完璧に俺のキャラが崩壊してるじゃないですか。大体、誰に向けての文章なんですか、これ？」

「ううう、前回を読んでないドクシャさまに？」

「わけの解らないメタはやめて下さいよ！」

俺に一喝されて、父はオカンゲリオンの巨大な足元にすがりついた。

「母さん、ダイキがいじめるよう……」

（まあ、あの子も反抗期ですからねえ。）

改めて自己紹介しよう。俺はダイキ、ごく普通の十五歳だ。

ちよつと父がクレイジーだったり、ちよつと母が規格外のデカさだったり、兄の引きこもり部屋がMSだったりする以外は、ごく普通の家庭で育った、ごく普通の中学生だ。

「自分だつてメタ……」

「残念でした、カッコに入れなければメタ『発言』じゃないんです。」

（まあ、まあ、喧嘩しないで。）

オカンゲリオンは大きな指で俺をつまみ上げた。

（ほらほら、遅刻しちゃうわよ。）

母は俺の口にトーストを突っ込んだ。

「あー、いいな。母さん、わしも。」

（もう、父さんったら、甘えんぼ？）

バカッフル漫才に付き合っている余裕はない。  
俺はカバンをひつつかむと、表へ飛び出した。

早足で歩く通学路には、すでに制服を着た学生の姿は無い。やばい。あと五分早く起きるべきだった。

近道をしようと通学路を外れ、公園を横切ろうとした俺は、滑り台の上に学ランを着た人物を見つけてしまった。

あちゃー、面倒なことに……

「おい、ダイキ、早くしないと遅刻するよ?」

レポート用紙の束を抱えて、人懐っこく手を振っている彼は幼稚園からの幼馴染だ。知らん顔するわけにもいかない。

「ユウト! お前だって遅刻するだろ。こんなところで何やってんだよ。」

「んー、宇宙の収縮率から見たこの公園の消滅点を計算したくなっちゃってね。」

超がつくほどの天才児である彼の言う事は、俺には全く理解不能だ。

「それはまた今度にして、学校に行こう?」

「いいよ。ちょうど最期の証明も終わったところだしね。」

俺はユウトを引きずるようにして走り出した。

何とか遅刻だけは免れた。急いでユウトの机の上を整えてやる。

「一時間目は国語だぞ。お前、国語の教科書は?」

「ああ、国語。そっか、国語ね。」

頼むから、そう言えばそんな教科もありましたね、みたいな顔しないでくれよ。それでなくても、あの先生に目をつけられてるんだからさ、お前は。

「別に、日本語なんか解らなくても、日常生活に困らないし?」

ほう、今お前が話している、それが何語か言ってみろ!

そうしている間にも、始業の時間は迫ってくる。俺はガコンと机をひっ付け、俺の教科書を真ん中に広げた。

「なんだ、また教科書を忘れたのか。」

嫌みの好きな国語教師は、教室に入っつてすぐに、ユウトに目を付

けた。

「違うんですよ、先生。忘れたのは僕の方で……」

「クズがクズをかばうから、こいつがますますグズになるんだぞ。」

『うまい事言っただろ?』と言いたげな視線に、クラスのあちこちでお義理の笑い声が上がった。俺もお義理と愛想を込めてヘラリと笑う。

ユウトだけは違った。すつくと立ち上がり、

「先生、僕の友人を愚弄しましたね?」

「あ? 愚弄もするさ。先生は苦労しているからな。お前、この前のテストも白紙で出しただろう。」

「それは、正解がなかったからです。」

「正解がない? そんな訳がないだろう。」

次の文章を読んで、選択肢の中から作者の気持ちに最も近いものを選びなさい。

ア 戦争の愚かさというものは文筆に表しきれないものである。

イ 戦争による損失は物的なものだけではない。

ウ 私をここまで育ててくれたのは皮肉にも戦争体験である

さあ、正解はどれでしょう? それとも天才君は『消去法』とかつて知らないのかなあ。」

「ふん、愚直な。この作問者は、作者にインタビューでもしたんですか? それとも、作者が直々に問題を作ってくれたとか?」

「へ理屈はいらない! 正解はどれかと聞いているんだ。」

「正解……正解が聞きたいんですか。」

ユウトの瞳が怪しく光るのを、俺は見逃さなかった。やばい! ユウトのやつ、アレをやる気だ……。

「教えてあげますよ、正解を。そして、お前の人生の間違いを……」

「ちよつと待ったターックル!」

俺は先生に詰め寄ろうとするユウトを思いつき突き飛ばした。

「先生! 今ので、俺もこいつも怪我をしました。保健室へ行つてき

ます！」

俺はユウトを引きずるようになり、教室を飛び出した。

今回は学園モノか？の巻（後書き）

あとがきドラマ

兄ちゃんの就職

あーあ、この引きこもり部屋から出るなんて、考えたくもない。  
オレは求人誌のページをめぐった。

ん？自家用車での出勤可？デブルガンダムは自家用車に入るのか？



## 女教師も出してみました！の巻

「あんな奴、洗脳してやればよかったのよ！それで、あんなことやこんなことさせちゃったりして……」

当校の美人保健医、楓先生は大口を開けて笑い飛ばした。

「見たかったな、ユウト君の、他人を洗脳する程度の能力。」

「いや、こいつの洗脳はマジしやれにならないですから。」

当のユウトはというと、ベッドの上にレポート用紙をぶちまけて何かを計算している。

「今日は何を計算しているのかな？天才君は。」

数少ないユウトの理解者である楓先生。彼女にはユウトも安心しきった笑顔を見せる。

「タイムマシンのもととなる、時間軸の簡単な計算ですよ。」

「面白そうね。でも、学校からのお知らせをメモ代わりにしちゃダメよ。」

レポート用紙にまぎれていたそのプリントを、彼女はつまみあげた。

「明日の授業参観のお知らせね。お家の人に見せなかったの？」

「ええ、どうせ、誰も来てくれませんから。」

それだけ言い放つと、ユウトは再び計算に没頭し始めた。

俺は楓先生を保健室の外まで連れ出した。

「あいつには『優等生』のアニキがいますてね。両親とも、扱いにくい『天才』よりも、どっちかって言うところ……ねえ。」

「もしかして、ユウト君のことは放って置きっぱなし！？あんなに美味しそ……才能あふれるコなのにな！」

俺は保健室の中をのぞき見た。両親からは厄介者扱いされ、友だちからは変人扱いされ、先生からは敵視される。それでも、ただひたすら数式をつづり続けるユウトは、寂しくは無いんだろうか。

「『天才』って、そんなにいけない事なんですかね？」

俺は我が家のお気楽な『天才』の事を思い浮かべていた。あいつに頭を下げるのはしゃくだが、仕方がない。俺の計画には、どうしてもあいつが必要だ。

家に帰った俺は、父の前に頭を下げた。

「ロボットを一体作ってください。」

「えー、何用？全長は何メートル欲しい？」

「そんなでかいサイズじゃなくて、普通の人間ぐらいの……ユウトの母親そっくりにお願いしたいんだけど。」

「そんな小さいのは専門外なんだがなあ。」

父は不服そうに、それでもラボに向かった。が、すぐに戻って来て、

「じゃあさ、せめて十万馬力にしてもいい？」

「お願いだから、普通の人間っぽく作ってください。首が取れるとか、パトカーを見ると破壊衝動にかられるなんてのも、やめて下さいよ。」

「それじゃ、まるきり普通じゃん。」

父は本当に不服そうだった。

## 女教師も出してみました！の巻（後書き）

あとがきドラマ

兄ちゃんの就職

俺はとりあえず、ある会社の面接を受けることにした。

意地の悪そうな面接官が、デブルガンドムをじろりとにらんだ。

「ずい分と変わった格好ですね。面接にはスーツだと言う常識は無いんですか？」

「はい、だからモビル『スーツ』です。」

「ふうん？」

何だかこいつ、嫌いだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5307ba/>

---

僕とおかんと狂気の父 ？

2012年1月14日21時46分発行